



# Cisco Secure Email Gateway スタートアップガイド

この章は、次の項で構成されています。

- [AsyncOS 14.2 の新機能](#) (1 ページ)
- [AsyncOS 14.0.2 の新機能](#) (5 ページ)
- [AsyncOS 14.0.1 の新機能](#) (7 ページ)
- [Web インターフェイスの比較、新しい Web インターフェイスとレガシー Web インターフェイス](#) (12 ページ)
- [詳細情報の入手先](#) (16 ページ)
- [Cisco Secure Email Gateway の概要](#) (19 ページ)

## AsyncOS 14.2 の新機能

表 1: AsyncOS 14.2 の新機能

機能	説明
URL レトロスペクティブ判定と URL 修復	レピュテーションが不明な URL は常に、ユーザのメールボックスに達した後であっても、悪意のあるファイルに変化する可能性があります。Talos から受信した URL レトロスペクティブ判定に基づいてアラートを送信するように、メールクラウドゲートウェイで URL フィルタリングを設定できます。URL 判定が不明から悪意ありに変更されたときにユーザのメールボックス内のメッセージに対して自動修復アクションを実行するように電子メールゲートウェイを設定することもできます。  詳細については、「 <a href="#">悪意のある URL または望ましくない URL からの保護</a> 」の章を参照してください。

機能	説明
送信者の成熟度	<p>このリリースでは、従来の送信者ドメインのレピュテーション (SDR) ドメインのエイジ機能が、送信者の成熟度に置き換えられます。送信者の成熟度は、送信者のレピュテーションを確立するための重要な機能です。送信者の成熟度は、スパムを分類するために、複数の情報源に基づいて自動的に生成され、「Whois-based domain age」とは異なる場合があります。</p> <p>[送信者の成熟度 (Sender Maturity)] は、電子メール送信者としてのドメインの成熟度に関する Cisco Talos の見解を表します。成熟度の値は、電子メールに関する脅威の検出を有効にするように調整されており、通常は「Whois-based domain age」で表されるドメインの経過時間は反映されません。</p> <p>送信者の成熟度は 30 日の制限に設定されており、この制限を超えるとドメインは電子メール送信者として成熟していると見なされてそれ以上の詳細は提供されません。</p> <p>(注) このリリース以降、[SDR ドメインのエイジ (SDR Domain Age)] 設定済みフィルタは、[SDR 送信者の成熟度 (SDR Sender Maturity)] フィルタに自動的に更新されます。[送信者の成熟度 (Sender Maturity)] の値が無効なフィルタは、アップグレード後に「非アクティブ」としてマークされます。メッセージまたはコンテンツフィルタを確認し、適宜変更してください。</p> <p>送信者の成熟度は送信者のレピュテーションの計算に使用されます。未熟なドメインには低いレピュテーションが割り当てられます。Cisco Talos では、ポリシーアクションの決定にのみ送信者のレピュテーションを使用することを推奨しています。送信者の成熟度は、特定の標準外シナリオに合わせてフィルタを微調整するために使用されます。</p> <p>(注) Cisco Talos ではドメインの成熟度を手動で調整しませんが、最適な値を決定するために自動システムとセンサーに依存します。</p> <p>詳細については、<a href="#">送信者ドメインレピュテーションフィルタリング</a>を参照してください。</p>

機能	説明
新しい送信者ドメインのレピュテーション判定	<p>このリリース以降、送信者ドメインのレピュテーションの判定は、所期の意味と推奨される使用法を正確に反映するように更新されています。</p> <p>アップグレード中に、システムは送信者ドメインレピュテーションメッセージまたはコンテンツフィルタ設定を自動的に更新して、新しい判定を反映します。メッセージまたはコンテンツフィルタを確認し、適宜設定してください。</p> <p>次のレガシー SDR 判定は、新しい SDR 判定にマッピングされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Awful」から「Untrusted」へ</li> <li>• 「Poor」から「Questionable」へ</li> <li>• 「Tainted」または「Weak」から「Neutral」へ</li> <li>• 「Neutral」から「Favorable」へ</li> <li>• 「Good」から「Trusted」へ</li> <li>• 「Unknown」から「Unknown」へ</li> </ul> <p>(注) SDR レポートおよびトラッキング AsyncOS API は、新しい SDR 脅威レベルとカテゴリ構造を反映するように更新されています。</p> <p>(注) SDR メールおよびトラッキングログが更新され、新しい SDR 脅威レベルと送信者の成熟度の詳細が反映されます。</p> <p>詳細については、<a href="#">送信者ドメインレピュテーションフィルタリング</a>を参照してください。</p>
送信者ドメインのレピュテーション (SDR) フィルタリングの改善	<p>このリリースでは、SDR サービスのユーザーエクスペリエンスおよび全体的な品質が、パフォーマンスの向上、可用性の向上、および SDR の展開によって強化されています。</p>

機能	説明
接続先コントロールのための TLS 証明書の拡張	<p>特定のドメインの「デフォルト」接続先コントロールエントリで設定された証明書以外の別の証明書を選択できるようになりました。</p> <p>別の証明書は、次のいずれかの方法で選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 対応する接続先コントロールエントリを編集し、Web インターフェイスの [TLS 証明書 (TLS certificate) ] オプションを使用して別の証明書を選択します。</li> <li>• 接続先コントロールエントリを作成または編集するときに、CLI で <code>destconfig&gt; new</code> または <code>edit</code> サブコマンドを使用して証明書を選択します。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">TLS の管理</a>を参照してください。</p>
クラシックライセンスの変更：Web インターフェイスおよび CLI の期限日	<p>このリリース以降、クラシックライセンスの Web インターフェイスおよび CLI の既存の [期限日 (Expiration Date) ] 列ヘッダーが [期限日 (猶予期間を含む) (Expiration Date (including grace period)) ] に変更されます。これは、期限日に猶予期間が含まれることを示しています。</p> <p>(注) すべてのアラートメッセージとメールログは、機能キーの猶予期間を含む期限日を表示するように変更されます。</p>

# AsyncOS 14.0.2 の新機能

表 2: AsyncOS 14.0.2 の新機能

機能	説明
接続先コントロールのための TLS 証明書の拡張	<p>特定のドメインの「デフォルト」接続先コントロールエントリで設定された証明書以外の別の証明書を選択できるようになりました。</p> <p>別の証明書は、次のいずれかの方法で選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 対応する接続先コントロールエントリを編集し、Web インターフェイスの [TLS 証明書 (TLS certificate) ] オプションを使用して別の証明書を選択します。</li> <li>• 接続先コントロールエントリを作成または編集するときに、CLI で <code>destconfig&gt;new</code> または <code>edit</code> サブコマンドを使用して証明書を選択します。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">TLS の管理</a>を参照してください。</p>
Syslog プッシュ ログ サブスクリプションのキャッシング	<p>Syslog プッシュ ログ サブスクリプションのローカルディスクバッファを設定できるようになりました。これにより、リモート Syslog サーバーが使用できないときに、セキュアな電子メールゲートウェイがログイベントをキャッシュできます。Syslog サーバーが使用可能になると、電子メールゲートウェイは、そのログサブスクリプションのバッファ内のすべてのデータを Syslog サーバーに送信し始めます。</p> <p>ディスクバッファパラメータは、次の方法で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Web インターフェイスの [システム管理 (System Administration) ] &gt; [ログサブスクリプション (Log Subscriptions) ] ページ詳細については、<a href="#">ログ取得方法</a>を参照してください。</li> <li>• CLI での <code>logconfig</code> コマンド。詳細については、CLI リファレンスガイドの「The Commands : Reference Example」の章の「Logging and Alerts」セクションを参照してください。</li> </ul>

機能	説明
プレフィックス付きまたはプレフィックスなしのスマート識別子の検出	<p>電子メールゲートウェイは、メッセージコンテンツのプレフィックスとして追加されたキーワード(「credit」、「ssn」、「cusip」、または「aba」)の有無にかかわらず、スマート識別子を検出します。</p> <p>プレフィックスとして追加されたキーワードの有無にかかわらず、スマート識別子を検出するように、コンテンツフィルタ条件またはメッセージフィルタルールを次の方法で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• メッセージ本文、メッセージ本文または添付ファイル、および添付ファイルのコンテンツについて、コンテンツフィルタ条件で、[スマート識別子のプレフィックスを含む (Contains smart identifier prefix) ] オプションを使用する。詳細については、<a href="#">コンテンツフィルタの条件</a>を参照してください。</li><li>• メッセージフィルタルールで、プレフィックス構文を使用する。詳細については、<a href="#">スマート ID の構文</a>を参照してください。</li></ul>

## AsyncOS 14.0.1 の新機能

表 3: AsyncOS 14.0.1 の新機能

機能	説明
URL フィルタリングの詳細設定	<p>電子メールゲートウェイの Web インターフェイスで、次の高度な URL フィルタリングパラメータを設定できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• URL ルックアップタイムアウト値 (URL Lookup Timeout value)</li><li>• メッセージ本文の URL の最大数 (Maximum number of URLs in the message body)</li><li>• メッセージ添付ファイルの URL の最大数 (Maximum number of URLs in message attachments)</li><li>• メッセージ内の URL テキストと HREF の書き換え (Rewrite URL text and HREF in the message)</li><li>• メールログおよびメッセージトラッキングの URL の詳細 (URL details in Mail Logs and Message Tracking)</li></ul> <p>詳細については、<a href="#">悪意のある URL または望ましくない URL からの保護</a>を参照してください。</p>

機能	説明
Cisco Cloud Services ポータルへの電子メールゲートウェイの登録	<p>次のいずれかのシナリオに基づいて、電子メールゲートウェイを Cisco Cloud Services ポータルに再登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子メールゲートウェイを Cisco Cloud Services ポータルに自動的に登録するときに、Cisco Cloud Services ポータルに追加されたデバイスを表示または管理できない場合。</li> <li>電子メールゲートウェイを Cisco Cloud Services ポータルに自動的に登録するときに、スマートアカウントと Cisco Cloud Services アカウントがリンクされていない場合。</li> </ul> <p>次のいずれかの方法を使用して、Cisco Cloud Services ポータルに電子メールゲートウェイを再登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Web インターフェイスの [ネットワーク (Network) ] &gt; [クラウドサービス設定 (Cloud Service Settings) ] ページ。</li> <li>CLI の <code>cloudserviceconfig&gt; reregister</code> サブコマンド。</li> </ul> <p>詳細については、「<a href="#">Cisco SecureX Threat Response との統合</a>」または、このリリースに関連する CLI リファレンスガイドの「The Commands : Reference Example」章の「Configuring Cisco Cloud Service Portal Settings and Usage」セクションを参照してください。</p>



機能	説明
Syslog プッシュの新しいパラメータ - ログ取得方式	<p>電子メールゲートウェイで Syslog プッシュログの取得方法を設定するために使用する必要がある新しいパラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• リモート Syslog サーバーのポート番号。</li><li>• リモート Syslog サーバーに送信されるログメッセージの最大サイズ (バイト単位)。</li><li>• (TCPプロトコルの場合のみ) : 電子メールゲートウェイとリモート Syslog サーバー間の TLS 接続。</li></ul> <p>次のいずれかの方法を使用して、Syslog プッシュログ取得方式の新しいパラメータを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Web インターフェイスの [システム管理 (System Administration) ]&gt; [ログサブスクリプション (Log Subscriptions) ] ページ</li><li>• CLI での <code>logconfig</code> コマンド。</li></ul> <p>詳細については、「<a href="#">ログ</a>」または、このリリースに関連する CLI リファレンスガイドの「The Commands : Reference Example」章の「Logging and Alerts」セクションを参照してください。</p>

機能	説明
<p>TLS を使用した SMTP コールアヘッド受信者検証の実行</p>	<p>TLS を使用して SMTP コールアヘッド受信者検証を実行するように電子メールゲートウェイを設定できるようになりました。</p> <p>(注) SMTP コールアヘッド受信者検証では、電子メールゲートウェイの [SSL 設定 (SSL Configuration)] ページの [その他の TLS クライアントサービス (Other TLS Client Services)] オプションで選択したものと同一 TLS バージョンを使用します。</p> <p>SMTP コールアヘッド受信者検証の TLS サポートをイネーブルにするには、次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Web インターフェイスの [ネットワーク (Network)] &gt; [SMTP コールアヘッド (SMTP Call-Ahead)] ページ</li> <li>• CLI での <code>callaheadconfig</code> コマンド</li> </ul> <p>詳細については、「<a href="#">SMTPサーバを使用した受信者の検証</a>」または、このリリースに関連する CLI リファレンスガイドの「The Commands : Reference Example」章の「SMTP Services Configuration」セクションを参照してください。</p>

機能	説明
電子メールゲートウェイのコンテンツディクショナリの最大数の設定	<p>電子メールゲートウェイで最大150のコンテンツディクショナリを設定できるようになりました。</p> <p>(注) デフォルトでは、電子メールゲートウェイに最大100のコンテンツディクショナリを設定できます。</p> <p>デフォルトの制限を変更するには、CLIで <code>dictionaryconfig &gt; dictionarylimits</code> サブコマンドを使用します。</p> <p>(注) [メッセージ本文または添付ファイル (Message Body or Attachments)] コンテンツフィルタ条件または [本文のスキャン (Body Scanning)] または [添付ファイルのスキャン (Attachment Scanning)] メッセージフィルタルールでコンテンツディクショナリを広範囲に使用すると、システムパフォーマンスが低下する場合があります。</p> <p>詳細については、このリリースに関連するCLIリファレンスガイドの「The Commands : Reference Example」章の「Policy Enforcement」セクションを参照してください。</p>
Secure Email Gateway での ESXi 7.0 認定	<p>Cisco Secure Email 仮想ゲートウェイを VMware vSphere Hypervisor (ESXi) 7.0 に展開できるようになりました。</p> <p>詳細については、<a href="https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/email-security-appliance/products-installation-guides-list.html">https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/email-security-appliance/products-installation-guides-list.html</a> の『Cisco Content Security Virtual Appliance Installation Guide』を参照してください。</p>

機能	説明
電子メールゲートウェイで SecureX Threat Response フィードの使用を設定	<p>Cisco SecureX Threat Response ポータルから脅威フィードを使用するように電子メールゲートウェイを設定できるようになりました。</p> <p>Cisco SecureX Threat Response ポータルでは、監視対象を継続的に収集するためのカスタムフィードを作成し、フィード URL を使用して電子メールゲートウェイでそれらを利用できます。フィードは、JSON 形式の監視対象の単純なリストです。フィードは、SecureX Threat Response ポータルの [インテリジェンス (Intelligence)] &gt; [フィード (Feeds)] ページで作成および管理されます。</p> <p>詳細については、<a href="#">外部脅威フィードを使用する電子メールゲートウェイの設定</a>を参照してください。</p>

## Web インターフェイスの比較、新しい Web インターフェイスとレガシー Web インターフェイス

次の表は、新しい Web インターフェイスの以前のバージョンとの比較を示しています。

表 4: 新しい Web インターフェイスとレガシー Web インターフェイスとの比較

Web インターフェイス ページ または要素	新しい Web インターフェイス	レガシー Web インターフェイス
ランディングページ	電子メールゲートウェイにログインすると、[メールフロー概要 (Mail Flow Summary)] ページが表示されます。	電子メールゲートウェイにログインすると、[マイダッシュボード (My Dashboard)] ページが表示されます。
レポートドロップダウン	[レポート (Reports)] ドロップダウンで、電子メールゲートウェイのレポートを表示できます。	[モニタ (Monitor)] メニューで、電子メールゲートウェイのレポートを表示できます。
[マイレポート (My Reports)] ページ	[レポート (Reports)] ドロップダウンから [マイレポート (My Reports)] を選択します。	[マイレポート (My Reports)] ページは、[モニタ (Monitor)] > [マイダッシュボード (My Dashboard)] から表示できます。

Web インターフェイス ページ または要素	新しい Web インターフェイス	レガシー Web インターフェイス
[メールフロー概要 (Mail Flow Summary) ] ページ	[メールフロー概要 (Mail Flow Summary) ] ページには、着信および送信メッセージに関するトレンド グラフやサマリー テーブルが表示されます。	[受信メール (Incoming Mail) ] には、着信および発信メッセージに関するグラフやサマリー テーブルが含まれます。
高度なマルウェア防御レポート ページ	<p>[レポート (Reports) ] メニューの [高度なマルウェア防御 (Advanced Malware Protection) ] レポート ページでは、次のセクションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [概要 (Overview) ]</li> <li>• [AMP ファイル レピュテーション (AMP File Reputation) ]</li> <li>• [ファイル分析 (File Analysis) ]</li> <li>• [ファイル レトロスペクション (File Retrospection) ]</li> <li>• [メールボックスの自動修復 (Mailbox Auto Remediation) ]</li> </ul>	<p>電子メールゲートウェイの [モニタ (Monitor) ] メニューには、次の [高度なマルウェア防御 (Advanced Malware Protection) ] レポート ページがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [高度なマルウェア防御 (Advanced Malware Protection) ]</li> <li>• [AMP ファイル分析 (AMP File Analysis) ]</li> <li>• [AMP判定のアップデート (AMP Verdict Updates) ]</li> <li>• [メールボックスの自動修復 (Mailbox Auto Remediation) ]</li> </ul>
アウトブレイク フィルタ ページ	新しい Web インターフェイスの [アウトブレイクフィルタリング (Outbreak Filtering) ] レポート ページでは、[過去1年間のウイルスアウトブレイク (Past Year Virus Outbreaks) ] および [過去1年間のウイルスアウトブレイクの概要 (Past Year Virus Outbreak Summary) ] は使用できません。	[モニタ (Monitor) ] > [アウトブレイクフィルタ (Outbreak Filters) ] ページには、[過去1年間のウイルスアウトブレイク (Past Year Virus Outbreaks) ] および [過去1年間のウイルスアウトブレイクの概要 (Past Year Virus Outbreak Summary) ] が表示されます。

Web インターフェイス ページ または要素	新しい Web インターフェイス	レガシー Web インターフェイス
スパム隔離 (管理ユーザーおよびエンドユーザー)	<p>新しい Web インターフェイスで [隔離 (Quarantine)] &gt; [スパム隔離 (Spam Quarantine)] &gt; [検索 (Search)] をクリックします。</p> <p>エンドユーザは、次の URL を使用してスパム隔離にアクセスできます。</p> <p><code>https://example.com:&lt;https-api-port&gt;/eqf-login</code></p> <p>example.com はアプライアンスホスト名で、&lt;https-api-port&gt; はファイアウォールで開いている AsyncOS API HTTPS ポートです。</p>	<p>スパム隔離は、[モニタ (Monitor)] &gt; [スパム隔離 (Spam Quarantine)] から表示できます。</p>
ポリシー、ウイルスおよびアウトブレイク隔離	<p>新しい Web インターフェイスで [隔離 (Quarantine)] &gt; [その他の隔離 (Other Quarantine)] をクリックします。</p> <p>新しい Web インターフェイスでは、[ポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離 (Policy, Virus and Outbreak Quarantines)] のみを表示できます。</p>	<p>電子メールゲートウェイでは、[モニタ (Monitor)] &gt; [ポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離 (Policy, Virus and Outbreak Quarantines)] を使用して、ポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離を表示、設定、および変更できます。</p>
隔離内のメッセージに対するすべてのアクションの選択	<p>複数 (またはすべて) のメッセージを選択し、削除、遅延、リリース、移動などのメッセージアクションを実行できます。</p>	<p>複数のメッセージを選択して、メッセージアクションを実行することはできません。</p>
添付ファイルの最大ダウンロード制限	<p>隔離されたメッセージの添付ファイルのダウンロードの上限は 25 MB に制限されています。</p>	-

Web インターフェイス ページ または要素	新しい Web インターフェイス	レガシー Web インターフェイス
拒否された接続	拒否された接続を検索するには、で、[トラッキング (Tracking)] > [検索 (Search)] > [拒否された接続 (Rejected Connection)] タブをクリックします。	-
クエリ設定	では、メッセージトラッキング機能の [クエリ設定 (Query Settings)] フィールドは使用できません。	メッセージトラッキング機能の [クエリ設定 (Query Settings)] フィールドで、クエリのタイムアウトを設定できます。
有効なメッセージトラッキングデータ	[有効なメッセージトラッキングデータ (Message Tracking Data Availability)] ページにアクセスするには、Web インターフェイスのページの右上にある歯車アイコンをクリックします。	電子メールゲートウェイの欠落データインターバルを表示することができます。
メッセージの追加詳細の表示	[判定チャート (Verdict Charts)]、[最後の状態 (Last State)]、[送信者グループ (Sender Groups)]、[送信者IP (Sender IP)]、[IPレピュテーションスコア (IP Reputation Score)]、[ポリシー一致 (Policy Match)] の詳細など、メッセージの追加詳細を表示できます。	-
判定チャートと最後の状態の判定	判定チャートに、電子メールゲートウェイ内の各エンジンによってトリガーされる可能性のあるさまざまな判定の情報が表示されます。  メッセージの最後の状態によって、エンジンのすべての可能な判定の後に、トリガーされる最終判定が決まります。	メッセージの判定チャートと最後の状態の判定は、使用できません。

Web インターフェイス ページ または要素	新しい Web インターフェイス	レガシー Web インターフェイス
メッセージの詳細における メッセージ添付ファイルとホ スト名	電子メールゲートウェイで は、メッセージの添付ファイ ルとホスト名は、メッセージ の [メッセージの詳細 (Message Details) ] セクショ ンには表示されません。	メッセージの添付ファイルと ホスト名は、メッセージの [メッセージの詳細 (Message Details) ] セクションに表示さ れます。
メッセージの詳細における送 信者グループ、送信者 IP、IP レピュテーションスコア、お よびポリシー一致	メッセージの送信者グルー プ、送信者 IP、IP レピュテー ションスコア、およびポリ シー一致の詳細は、電子メー ルゲートウェイの [メッセー ジの詳細 (Message Details) ] セ クションに表示されます。	メッセージの送信者グルー プ、送信者 IP、IP レピュテー ションスコア、およびポリシー 一致は、メッセージの [メッ セージの詳細 (Message Details) ] セクションには表示 されません。
メッセージの方向 (受信また は送信)	メッセージの方向 (受信また は送信) は、電子メールゲー トウェイのメッセージトラッ キング結果ページに表示され ます。	メッセージの方向 (受信また は送信) は、メッセージト ラッキング結果ページには表 示されません。

## 詳細情報の入手先

シスコでは、電子メールゲートウェイに関する理解を深めて頂くために次の資料を提供しています。

- [資料 \(16 ページ\)](#)
- [トレーニング \(17 ページ\)](#)
- [Cisco 通知サービス \(17 ページ\)](#)
- [ナレッジベース \(18 ページ\)](#)
- [シスコ サポート コミュニティ \(18 ページ\)](#)
- [シスコカスタマーサポート \(18 ページ\)](#)
- [サードパーティ コントリビュータ \(19 ページ\)](#)
- [マニュアルに関するフィードバック \(19 ページ\)](#)
- [シスコアカウントの登録 \(19 ページ\)](#)

## 資料

アプライアンスの GUI で右上の [ヘルプとサポート (Help and Support) ] をクリックすることにより、ユーザ ガイドのオンラインヘルプバージョンに直接アクセスできます。



Cisco Secure Email Gateway のマニュアルセットには次のマニュアルが含まれます。

- リリース ノート
- ご使用の Cisco Email Security Appliances モデルのクイック スタート ガイド
- ご使用のモデルまたはシリーズのハードウェア インストール ガイドまたはハードウェア インストールおよびメンテナンス ガイド
- 『Cisco Content Security Virtual Appliance Installation Guide』
- 『Cisco Secure Email Gateway 向け AsyncOS ユーザーガイド』 (本書)
- 『CLI Reference Guide for AsyncOS for Cisco Secure Email Gateway』
- 『AsyncOS API for Cisco Secure Email Gateway - Getting Started Guide』

Cisco Content Security 製品のすべてに関する資料が以下で入手できます。

Cisco コンテンツセキュリティ製品の マニュアル	参照先
ハードウェアおよび仮想アプライア ンス	この表で該当する製品を参照してください。
Cisco E メール セキュリティ	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/series.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/series.html</a>
Cisco Web セキュリティ	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/web-security-appliance/series.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/web-security-appliance/series.html</a>
Cisco コンテンツ セキュリティ管理	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/content-security-management-appliance/series.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/content-security-management-appliance/series.html</a>
Cisco コンテンツ セキュリティ アプ ライアンスの CLI リファレンス ガイ ド	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/product-command-reference.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/product-command-reference.html</a>
Cisco IronPort 暗号化	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/product-command-reference.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/security/email-security-appliance/product-command-reference.html</a>

## トレーニング

シスコでは、技術者、パートナー、学生など、それぞれのニーズに合わせた、さまざまなトレーニングプログラムおよびトレーニングコースを用意しています。

- <http://www.cisco.com/c/en/us/training-events/training-certifications/supplemental-training/email-and-web-security.html>
- <http://www.cisco.com/c/en/us/training-events/training-certifications/overview.html>

## Cisco 通知サービス

セキュリティ アドバイザリ、フィールド ノーティス、販売終了とサポート終了の通知、およびソフトウェアアップデートと既知の問題に関する情報などの Cisco コンテンツセキュリティ アプライアンスに関連する通知が配信されるように署名して参加します。

受信する情報通知の頻度やタイプなどのオプションを指定できます。使用する製品ごとの通知に個別に参加する必要があります。

参加するには、<http://www.cisco.com/cisco/support/notifications.html> に移動します。

Cisco.com アカウントが必要です。ない場合は、[シスコ アカウントの登録](#)（19 ページ）を参照してください。

## ナレッジ ベース

### 手順

- 
- ステップ 1** 製品のメイン ページ (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/email-security-appliance/tsd-products-support-series-home.html>) にアクセスします。
- ステップ 2** 名前に **TechNotes** が付くリンクを探します。
- 

## シスコ サポート コミュニティ

シスコ サポート コミュニティは、シスコのお客様、パートナー、および従業員のオンライン フォーラムです。電子メールおよび Web セキュリティに関する一般的な問題や、特定のシスコ製品に関する技術情報について話し合う場を提供します。このフォーラムにトピックを投稿して質問したり、他のシスコ ユーザと情報を共有したりできます。

Customer Support Portal のシスコ サポート コミュニティには、次の URL からアクセスします。

- 電子メール セキュリティと関連管理:  
<https://supportforums.cisco.com/community/5756/email-security>
- Web セキュリティと関連管理 :  
<https://supportforums.cisco.com/community/5786/web-security>

## シスコ カスタマー サポート

Cisco Secure Email Cloud Gateway に関して支援を必要とする場合、シスコ カスタマーサポートには問い合わせないでください。Cloud/Hybrid Email Security アプライアンスのサポートの詳細については、『Cisco IronPort Hosted Email Security / Hybrid Hosted Email Security Overview Guide』を参照してください。

シスコ TAC : <http://www.cisco.com/c/en/us/support/web/tsd-cisco-worldwide-contacts.html>

従来の IronPort のサポート サイト : <http://www.cisco.com/c/en/us/services/acquisitions/ironport.html>

重大ではない問題の場合は、電子メールゲートウェイからカスタマーサポートにアクセスすることもできます。手順については、[ユーザー ガイド](#)または[オンライン ヘルプ](#)を参照してください。

## サードパーティコントリビュータ

次のページにある、ご使用のリリースのオープンソースライセンス情報を参照してください。  
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/email-security-appliance/products-release-notes-list.html>

Cisco AsyncOS 内に付属の一部のソフトウェアは、FreeBSD、Stichting Mathematisch Centrum、Corporation for National Research Initiatives などのサードパーティコントリビュータのソフトウェア使用許諾契約の条項、通知、条件の下に配布されています。これらすべての契約条件は、Cisco ライセンス契約に含まれています。

これらの契約内容の全文は次の URL を参照してください。

[https://support.ironport.com/3rdparty/AsyncOS\\_User\\_Guide-1-1.html](https://support.ironport.com/3rdparty/AsyncOS_User_Guide-1-1.html)

Cisco AsyncOS 内の一部のソフトウェアは、Tobi Oetiker の書面による同意を得て、RRDtool を基にしています。

このマニュアルには、Dell Computer Corporation の許可を得て複製された内容が一部含まれています。このマニュアルには、McAfee の許可を得て複製された内容が一部含まれています。このマニュアルには、Sophos の許可を得て複製された内容が一部含まれています。

## マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルマニュアルチームは、製品ドキュメントの向上に努めています。コメントおよびご提案をお待ちしています。ぜひ以下の電子メールまでお知らせください。

[contentsecuritydocs@cisco.com](mailto:contentsecuritydocs@cisco.com)

メッセージの件名には、製品名、リリース番号、このマニュアルの発行日をご記入ください。

## シスコアカウントの登録

Cisco.com の多数のリソースへアクセスするには、シスコのアカウントが必要です。

Cisco.com のユーザ ID をお持ちでない場合は次のリンク先で登録できます。  
<https://idreg.cloudapps.cisco.com/idreg/register.do>

### 関連項目

- [Cisco 通知サービス \(17 ページ\)](#)
- [ナレッジベース \(18 ページ\)](#)

## Cisco Secure Email Gateway の概要

AsyncOS™ オペレーティングシステムには、次の機能が組み込まれています。

- SenderBase レピュテーションフィルタと Cisco Anti-Spam を統合した独自のマルチレイヤアプローチによるゲートウェイでのスパム対策。

- Sophos および McAfee ウイルス対策スキャンエンジンによるゲートウェイでのウイルス対策。
- 新しいアップデートが適用されるまで危険なメッセージを隔離し、新しいメッセージ脅威に対する脆弱性を削減する、新しいウイルス、詐欺、およびフィッシングの拡散に対するシスコの独自保護機能である **アウトブレイク フィルタ™**。
- **ポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク検査**は、疑わしいメッセージを保存して管理者が評価するための安全な場所を提供します。
- 隔離されたスパムおよび陽性と疑わしいスパムへのエンドユーザアクセスを提供する、オンボックスまたはオフボックスの **スパム隔離**。
- **電子メール認証**。Cisco AsyncOS は、発信メールに対する DomainKeys および DomainKeys Identified Mail (DKIM) の署名の他に、着信メールに対する Sender Policy Framework (SPF)、Sender ID Framework (SIDF)、DKIM の検証など、さまざまな形式の電子メール認証をサポートします。
- Cisco **電子メール暗号化**。HIPAA、GLBA、および同様の規制要求に対応するために発信メールを暗号化できます。これを行うには、電子メールゲートウェイで暗号化ポリシーを設定し、ローカルキーサーバまたはホステッドキーサービスを使用してメッセージを暗号化します。
- 電子メールゲートウェイ上のすべての電子メールセキュリティサービスおよびアプリケーションを管理する、単一で包括的なダッシュボードである **電子メールセキュリティマネージャ**。電子メールセキュリティマネージャは、ユーザグループに基づいて電子メールセキュリティを実施でき、インバウンドとアウトバウンドの独立したポリシーを使用して、Cisco レピュテーションフィルタ、アウトブレイクフィルタ、アンチスパム、アンチウイルス、および電子メール コンテンツ ポリシーを管理できます。
- **オンボックスのメッセージトラッキング**。AsyncOS for Email には、電子メールゲートウェイが処理するメッセージのステータスの検索が容易にできる、オンボックスのメッセージトラッキング機能があります。
- 企業のすべての電子メールトラフィックを全体的に確認できる、すべてのインバウンドおよびアウトバウンドの電子メールに対する **メールフロー モニタ機能**。
- 送信者の IP アドレス、IP アドレス範囲、またはドメインに基づいた、インバウンドの送信者の **アクセス制御**。
- 広範な **メッセージおよびコンテンツ フィルタリング** テクノロジーを使用して、社内ポリシーを順守させ、企業のインフラストラクチャを出入りする特定のメッセージに作用させることができます。フィルタルールでは、メッセージまたは添付ファイルの内容、ネットワークに関する情報、メッセージエンベロープ、メッセージヘッダー、またはメッセージ本文に基づいてメッセージを識別します。フィルタアクションでは、メッセージをドロップ、バウンス、アーカイブ、ブラインドカーボンコピー、または変更したり、通知を生成したりできます。
- **セキュアな SMTP over Transport Layer Security 経由のメッセージの暗号化**により、企業のインフラストラクチャとその他の信頼できるホストとの間でやりとりされるメッセージが暗号化されるようになります。
- **Virtual Gateway™** テクノロジーにより、電子メールゲートウェイは、単一サーバ内で複数の電子メールゲートウェイとして機能できるため、さまざまな送信元またはキャンペーンの電子メールを、それぞれ独立した IP アドレスを通して送信するように分配できます。

これにより、1つの IP アドレスに影響する配信可能量の問題が、他の IP アドレスに及ばないようにします。

- 複数のサービスによって提供される、電子メールメッセージ内の**悪意のある添付ファイル**や**リンクからの保護**。
- **データ損失防止**により、組織から出る情報の制御と監視を行います。

AsyncOS は、メッセージを受け入れて配信するために、RFC 2821 準拠の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) をサポートします。

レポート作成コマンド、モニタリング コマンド、およびコンフィギュレーション コマンドのほとんどは、HTTP 経由でも HTTPS 経由でも Web ベースの GUI から使用できます。さらに、セキュアシェル (SSH) または直接シリアル接続でアクセスするインタラクティブなコマンドラインインターフェイス (CLI) がシステムに用意されています。

また、複数の電子メールゲートウェイのレポート、トラッキング、および隔離管理を統合するように Cisco Secure Email and Web Manager を設定できます。

#### 関連項目

- [サポートされる言語 \(21 ページ\)](#)

## サポートされる言語

AsyncOS は次の言語のいずれかで GUI および CLI を表示できます。

- 英語
- フランス語
- スペイン語
- ドイツ語
- イタリア語
- 韓国語
- 日本語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- 中国語 (繁体字および簡体字)
- ロシア語



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。